甲斐市立竜王北小学校　自己評価書

令和７年２月７日　（金）　作成

校長「梶本 宏」　　記述者 職名（教頭）「金丸 徹」

学校教育目標　「創造性豊かな心身ともにたくましい子どもの育成」

① 自ら学び 深く考える子ども

② 心美しい 思いやりある子ども

③ 明るく健康で たくましい子ども

学校経営方針

・全ての教職員の力を集結する中で、職員組織の協力・支援体制を確立し、活力ある学校の創造と教育目標の具現化に努める。

・教育目標の達成を目指した創意ある教育課程の編成・実施・評価に努める。

・確かな学力の向上を図るための学習指導の改善と工夫に努める。

・教職員と児童、児童相互のふれあいを深め、豊かな心を育むとともに、きめ細かな生徒指導に努める。

・教師として、常に研究と修養に努め、校内研究の充実を図るとともに、専門職としての資質能力の向上に努める。

・地域人材を活用した道徳教育の推進に努める。

・児童自らが進んで健康な生活を送ることができる実践的態度の育成に努める。

・教職員間の支援体制の確立、家庭や関係機関との連携を通して、特別支援教育の充実に努める。

・安全な学校生活が送れるよう危機管理体制を確立する中で、教職員の危機管理意識の高揚に努める。

・保幼・小・中や家庭・地域・関係機関との連携を図るとともに、こまめな情報発信を通して、地域に開かれた学校づくりに努める。

・外国語及び外国語活動において、ALTと連携を図る中で国際理解教育の推進に努める。

・教育環境の整備・充実を図り、教育活動における効果的な活用と環境教育の推進に努める。

・横断的教育活動を通して、ボランティア活動等福祉教育の推進に努める。

・幼保・小・中学校を系統的に見通した効果的な指導を図るため、幼保小中の連携を図る。

１　全体評価

○ 「教職員自己評価」「保護者アンケート」「児童アンケート」の３つのアンケートを行い、結果はＡ評価（とてもそう思う）、Ｂ 評価（そう思う）を合わせて「肯定的評価」としたうえで、結果の考察を行った。

○過去3年の結果をグラフで示し、経年比較することで視覚的にも分かりやすい結果表示を心掛けた。

・全般的に教職員・保護者・児童のアンケート結果は、どの項目も肯定的な結果であった。このことから、学校教育を全体的な視点でみた時、本校の教育が充実した中で行われていると言える。

・学校教育目標の具現化に向け、学校経営方針に基づいた全職員の共通理解のもとで、統一感のある指導が図られてきた。

・質の高い教育を目指し、日々の教育実践がなされ、確かな学力を育てることに一定の成果を見出していることがうかがえる。

・個々の教職員が問題意識を持つとともに、全体で課題を共有して取り組むことにより、いじめや不登校

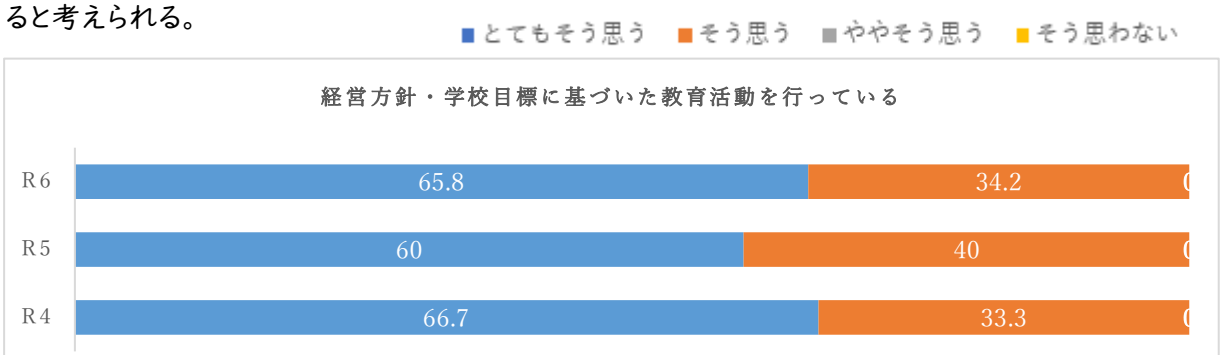
等について、児童一人一人を大切にしたきめ細かな指導を展開することができた。
・多くの児童にとって学校が楽しい居場所となっており、学校生活の中でそれぞれの力を発揮でき活躍できる場が確保されている。
・地域との連携については、子ども達の様子を見ていただく機会がコロナ禍以前に戻りつつあり、今後も充実させていきたい。
・教職員の多忙化が叫ばれる中、働き方にゆとりをもたらすためにも、教職員の意識改革を進めるとともに、業務の効率化やICTの効果的な活用などにさらに取り組む必要がある。

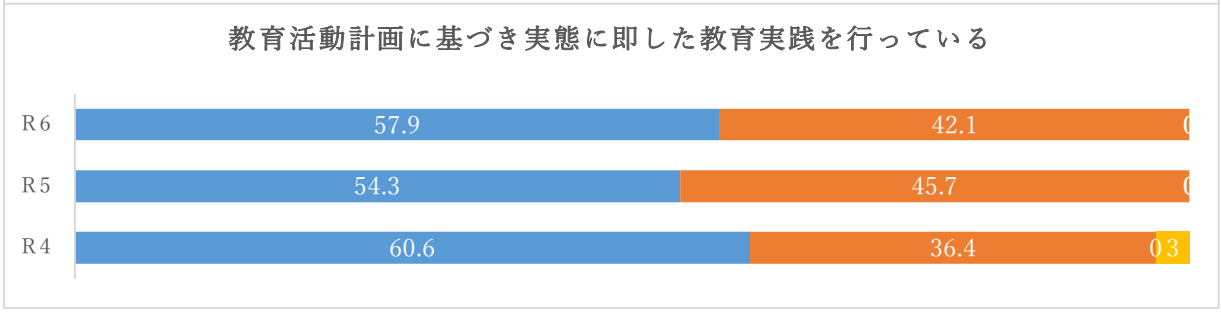
２　項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

Ⅰ　学校教育目標に関して・学校経営について

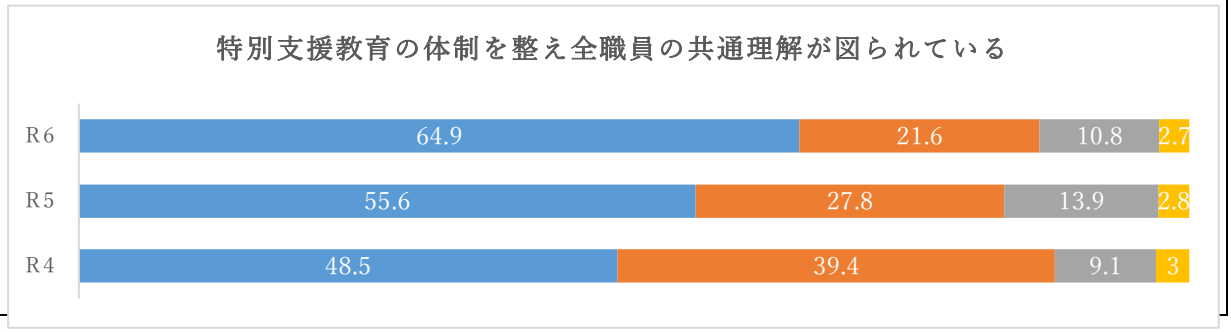
達成状況

・学校教育目標や学校経営については全体的に肯定的な意見が多く、引き続きほとんどの教職員が学校教育目標を踏まえた学校経営がなされ、一定の成果を得ている実感していることがうかがえる。この傾向は過去3年においても同様であり、教職員一人一人の職責に対する意識の高さを表していると考えられる。

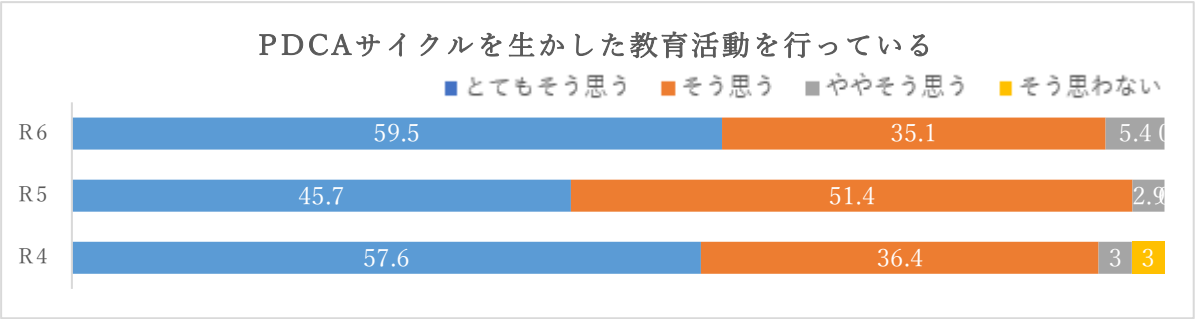




・特別支援教育の重要性を多くの教職員が認識し、一人一人の個に応じた指導を実践することの必要性が共通理解されてきている。



・PDCA サイクルを生かした教育活動の実践について「A 評価」が60%に届かず「計画・実行・評価・改善」の考え方を再認識し、改善に努めていく必要がある。



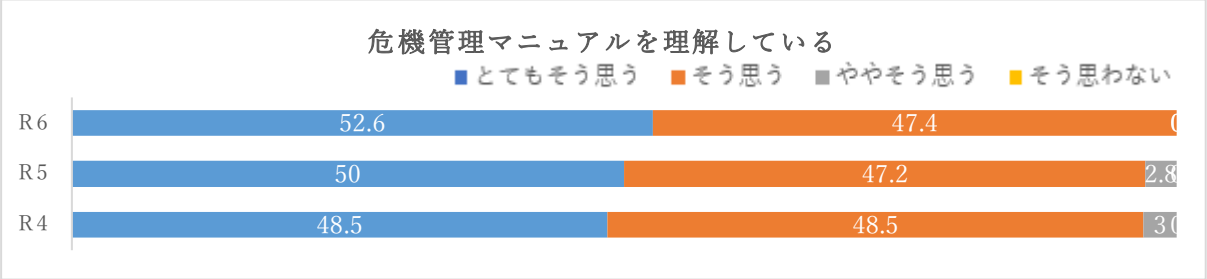
改善策

① 学校教育目標達成のため、今後も一人一人が学校教育目標・学校経営方針・指導重点の認識や理解を深め、日々の教育活動との関わりを意識できるようにしていきたい。
② すべての児童が居心地のよい学校・学級であるために、今後も特別支援教育の重要性を全教職員で共通理解し実践できる学校運営に努める必要がある。
③ PDCAサイクルを生かした教育活動を学校全体で取り組んでいき、学校教育目標の具現化につながる充実した教育活の改善を図っていく。

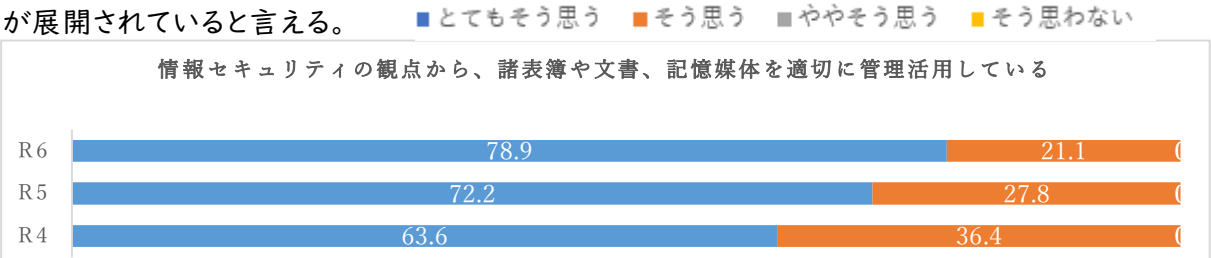
Ⅱ 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

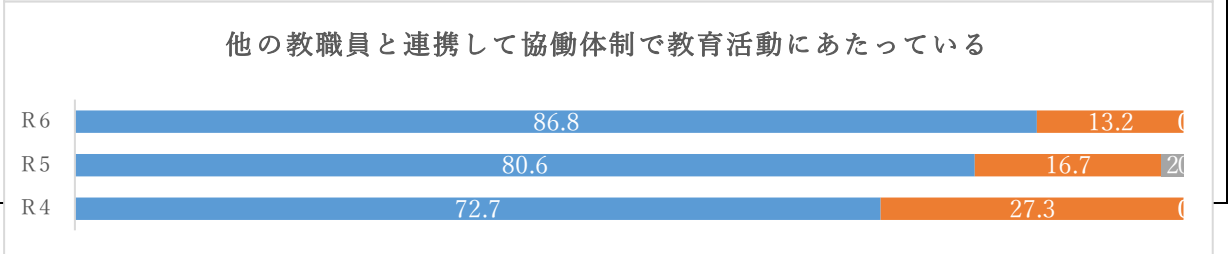
達成状況

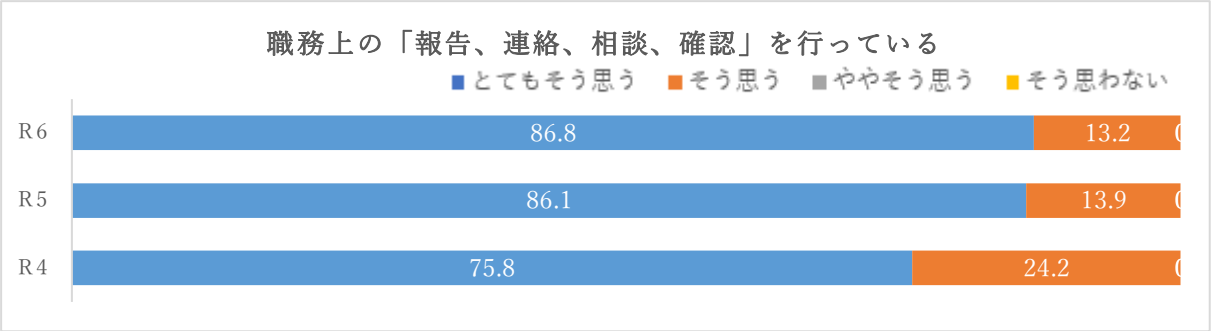
・今年度、危機管理マニュアルの理解度は AB 評価で100%に達したものの、今後も全職員が危機管理に対する意識を高め、危機対応能力（実践力）の向上に継続して取り組む必要がある。



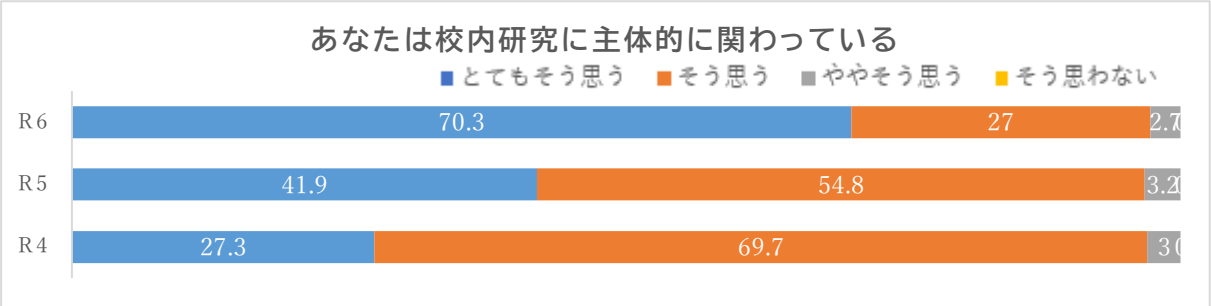
・2「個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している」、3「他の教職員と連携して協働体制で教育活動にあたっている」、4「職務上「報告・連絡・相談・確認」を行っている」についてはAB評価がほぼ100%であったことから、適切な情報管理の下で、報告・連絡・相談等の情報共有がなされ、共通理解をもって協働的な教育活動が展開されていると言える。



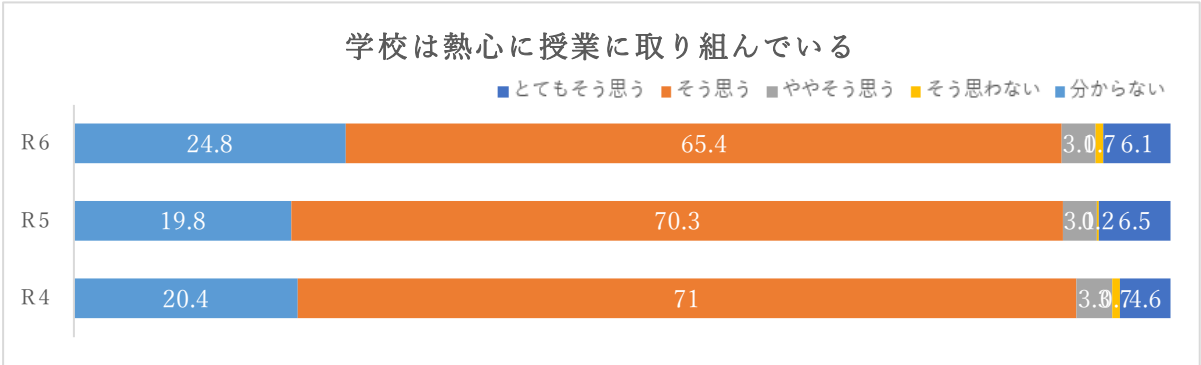


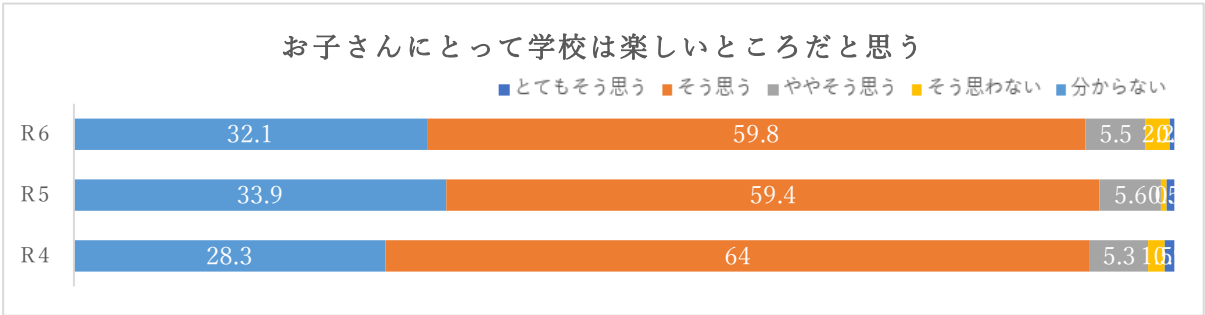


・「校内研究（研修）に主体的に関わっている」の質問に対する評価が非常に高くなっている。「新たな学び」「学習者主体の学び」について全職員が課題意識をもって研究に取り組んだ成果がうかがえる。



・保護者アンケートからは学校運営に関わる項目に関して、肯定的な評価が引き続き高い割合を示しており、学校運営に対して一定の理解をいただいていることがうかがえる。





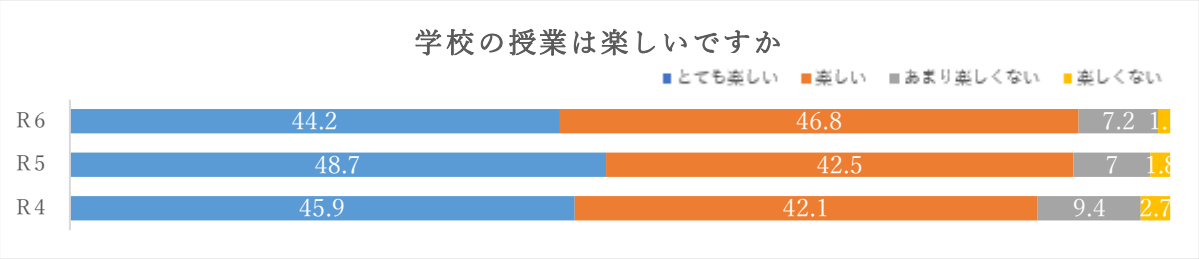
改善策

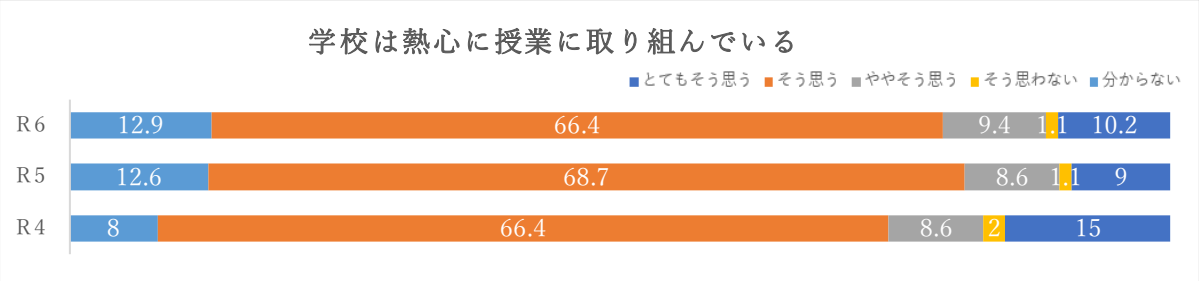
①危機対応能力（実践力）の向上に向け、危機管理マニュアルの見直しを継続的に行い、実践的な訓練を重ねていく。

②若手教職員が増加する中「報告・連絡・相談・確認」を徹底し、互いに学び合える環境づくりを行う。

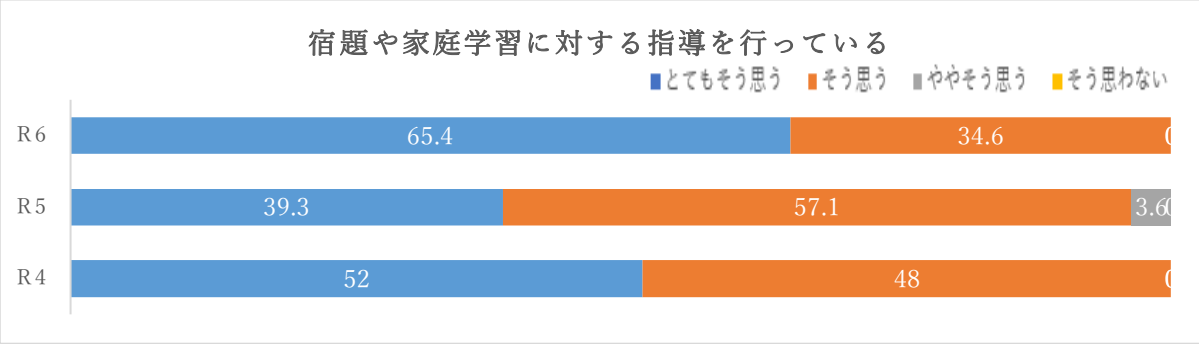
③本校の実態を踏まえる中で、本校独自の課題を全職員で共有し、研修・研究の場を充実させる必要がある。そのために先進的な実践に学ぶなど、今後も継続して校内研究（研修）を充実させていきたい。

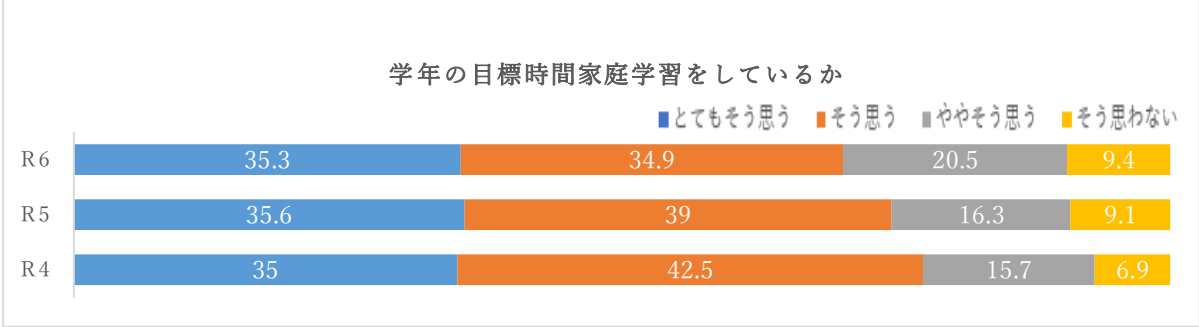
Ⅲ　学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	・AB評価合わせると多くの項目でほぼ100%となっており、質の高い教育を目指した教育実践がなされ、確かな学力を育てることに一定の成果を見出していることがうかがえる。また、教員一人一人が学習指導に対して「分かる授業」「楽しい授業」をめざし日々実践を重ねている。 ・多くの児童は学校での授業を「楽しいもの」と捉えており、学習に対して前向きに取り組めていることが分かる一方、学校の授業が「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答する児童も約8%いることからも「授業がわからない」と感じている児童への対応が急務である。また、保護者からも「学校は熱心に授業に取り組んでいる」について否定的な回答が10%程ある事からも、より「楽しい授業」「分かる授業」の実践に力を入れていく必要がある。

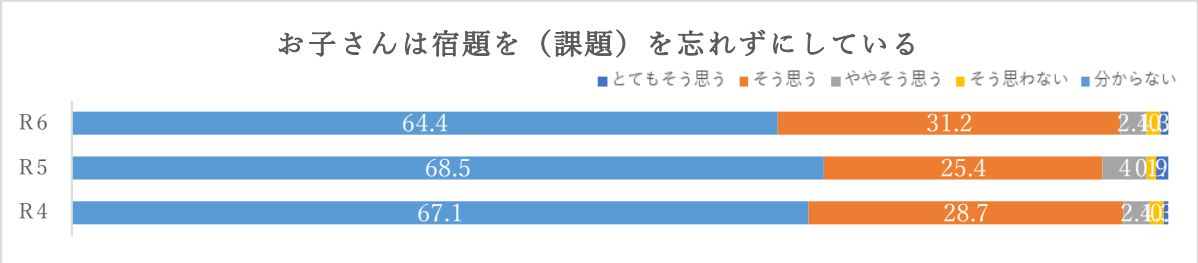




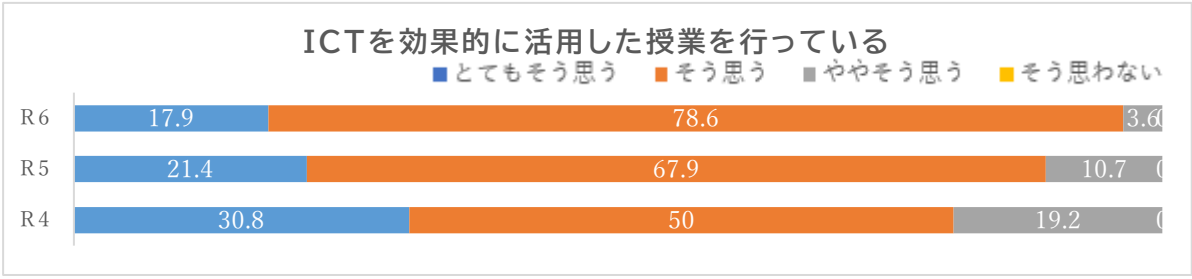
・学校として「宿題や家庭学習に対しする指導」について昨年度の反省をいかし、積極的に取り組んできた結果が見て取れるものの、家庭学習を「あまりしていない」「していない」と回答する児童の割合がやや増加した結果となった。



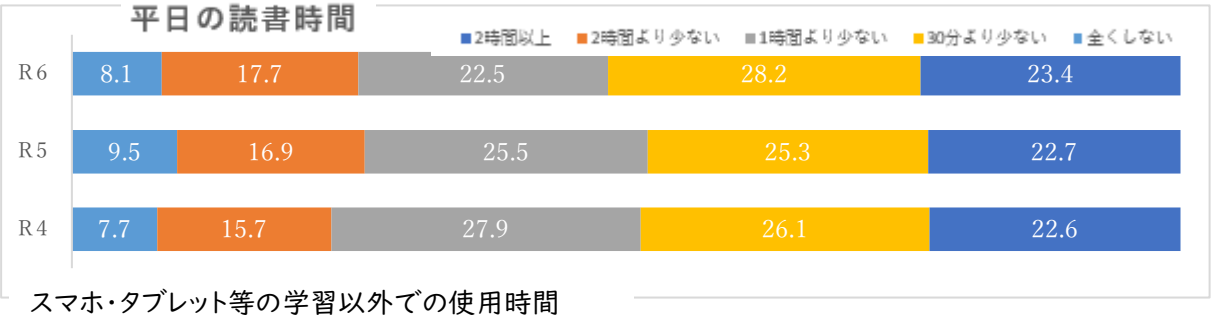




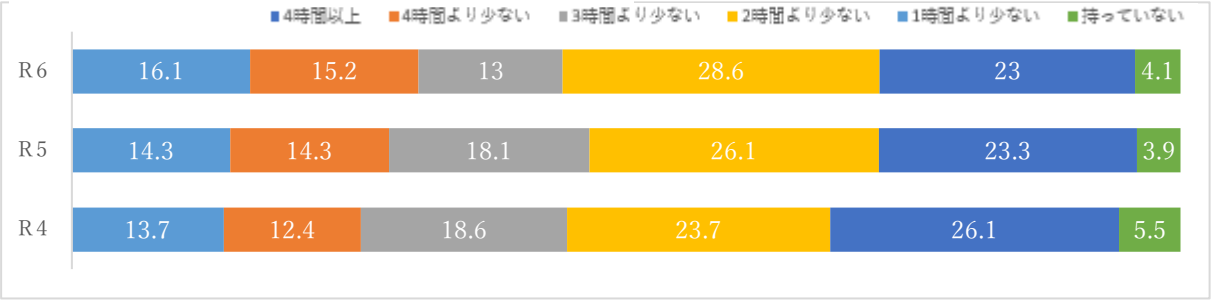
・「ICT を効果的に活用した授業を行っている」について「A 評価」が年を追うごとに低くなっている。全国的に端末を活用した授業実践が増え、研究、研修を進めている本校教員もそうした実践を見聞きする中で自身が端末を有機的に活用仕切れていないと感じている実態が見て取れる。



・平日の読書時間について、「30分より少ない」「全くしない」と回答する児童の割合が依然として高い。一方、学習以外にスマホやタブレットゲーム機などの電子機器を使用する時間が延びてきている。



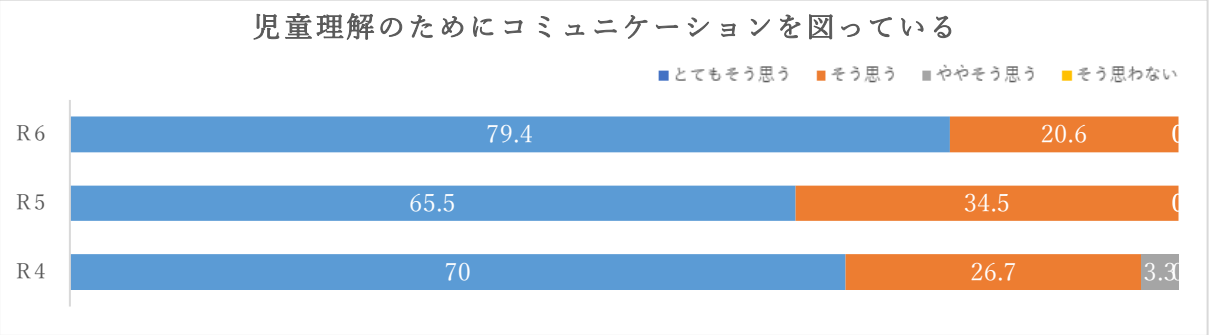
スマホ・タブレット等の学習以外での使用時間



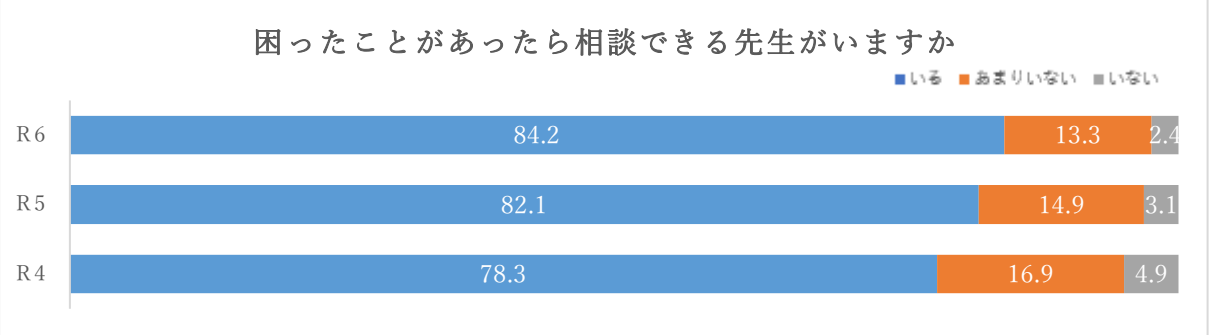
改善策

①校内外の研修の機会を各教職員が積極的に活用し、授業改善の工夫に引き続き取り組み「わかる授業、楽しい授業」を実践する。
②家庭学習の定着に向け先進的な取り組みや進学先の中学校のやり方などを学び、義務教育期間の9年間を見越した学習習慣作りに取り組む。
③本校に県から配置されている教職員はもとより、支援員・支援スタッフを有効的に活用することで、個に応じた学習を充実できる環境づくりに努める。
④読書に親しむ時間を確保するとともに、読書の楽しさに触れる活動を充実させ、自ら読書に親しむ習慣を身に付けさせる。

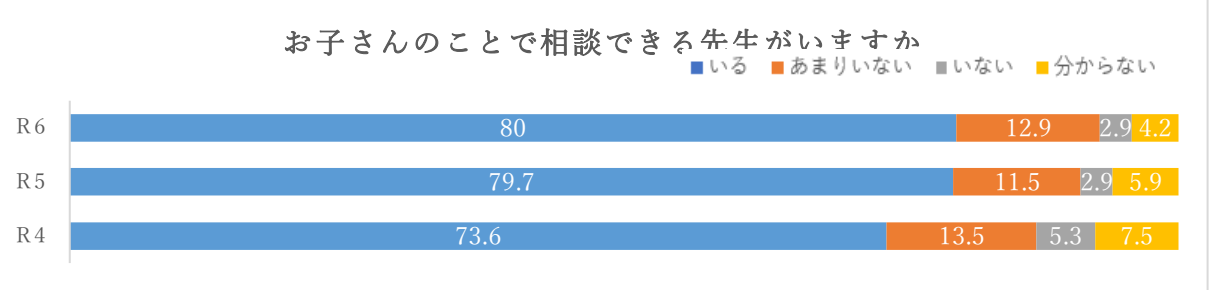
Ⅳ	生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）
達成状況	・生徒指導について教職員のAB評価は、6項目中4項目が100%、2項目が90%以上であった。全体的には昨年と同じ傾向であったが、児童一人一人を見つめて丁寧に対応し、誰もが居心地のよい学級集団づくりに取り組んできた成果である。 ・変化の激しい社会を生きる子ども達のよき理解者でありたいと願う教職員が多く、児童理解に積極的に取り組んできた。また、いじめや不登校の早期発見に心掛け、不登校傾向にある児童に対しても全職員でサポートにあたるシステムが構築されつつある。

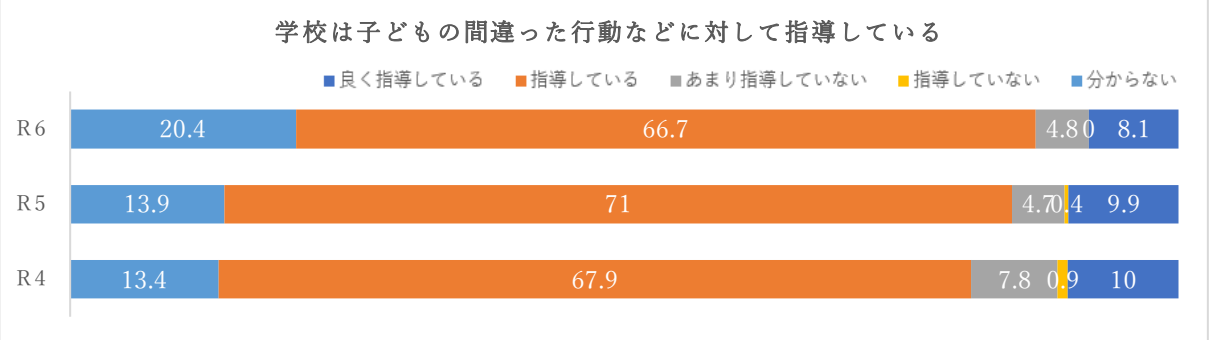


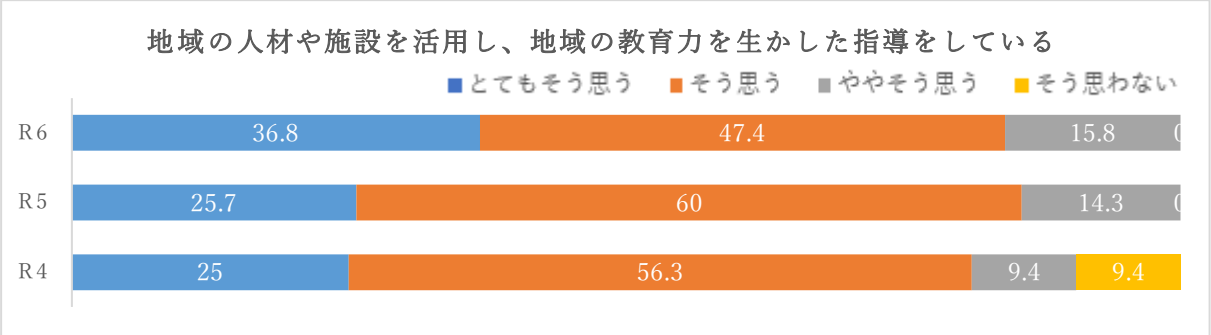
・児童アンケートからも「困ったことがあったら相談できる先生がいる」と回答する児童が増加傾向にあり、児童と教職員との関係づくりが成果を見せはじめている。

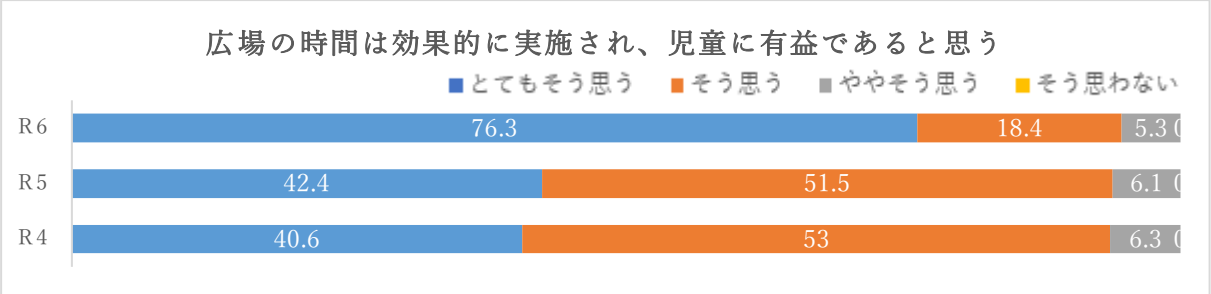


・保護者アンケートからは「お子さんのことで相談できる先生はいますか」「学校は間違った行動などに対して指導している」について肯定的な評価の割合が増加している。

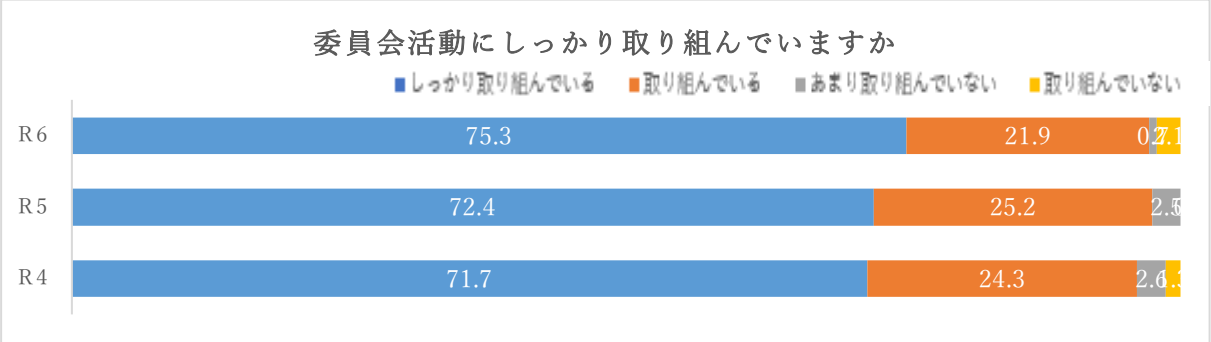




改善策	①児童一人一人が主体的に参加し活躍できる「わかる授業づくり」や「居場所づくり、絆づくり」につながる行事等、自己肯定感を育む教育活動の充実を図っていく。 ②「いじめ、不登校等の早期発見・対応」については、Q−U調査や児童対象の学校評価、いじめアンケートを有効に活用し、児童一人一人の理解や支援を行っていく。また、積極的な生徒指導の展開（平時に子ども・保護者との信頼関係を築く取組）を心掛け、電話連絡や家庭訪問を密に行う。 ③全職員が全校児童とのコミュニケーションを深めて信頼関係を結ぶことで、児童の小さな変化をきめ細かく見取り、問題の早期発見に努める。 ④保護者やSC、関係機関と連携を図りながら、児童・保護者が相談しやすい関係づくりを目指す。 ⑤生徒指導委員会等を活用し、児童についての情報交換と指導方針を共有し合うことで、全職員が同じ歩調で対応できるようにする。
Ⅴ	地域との連携について
達成状況	・地域との連携については、昨年度よりも、全体的に高い数値となった。地域人材や外部指導者を招いての学習機会は昨年度よりも増えた。また、教職員の自己評価において「地域人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導」についてはA評価の割合が増加傾向にあり、コロナ禍以前の学校行事や校外学習が展開できるようになってきたことの表れだと考える。 ・ホームページや学校・学年だよりをはじめ、図書・保健・給食・研究だよりなど各担当からも保護者への情報発信を行い、開かれた学校づくりに努めてきた。保護者アンケートからは、この点について肯定的な回答が9割となっていることから一定の成果があったと考えている。今後も子ども達の活動の様子を随時伝えられるよう努めていきたい。 
改善策	①無理の無い範囲で地域教材や人材を教育資源として取り入れ、地域の教育力を生かす教育活動に取り組んでいく。 ②ホームページを学校活動紹介の発信源の一つとして保護者・地域に周知し、内容の充実や広報活動に努めていく。また、保護者・地域のニーズに合致した情報を提供できるよう、読み手の目線での発信を意識していく。 ③本年度設置された学校運営協議会との連携を強化し、学校を中心として地域人材の発掘や協力を呼びかけていきたい。
Ⅵ	学校の特色に関して
達成状況	・4項目すべての質問において「A 評価」の割合が増加した。特に「広場の時間は効果的に実施され、児童に有益であると思う」の質問には、昨年度より「A 評価」とした回答が15ポイントも上昇しており、成果がうかがえる。「広場の時間」は二学年ずつの音楽発表会や体育的行事を設定するなど短時間で効果的な活動が実施できたことがうかがえる。音楽集会は保護者にも参観を呼び掛け子ども達の成長を知るよい機会となったと考えられる。



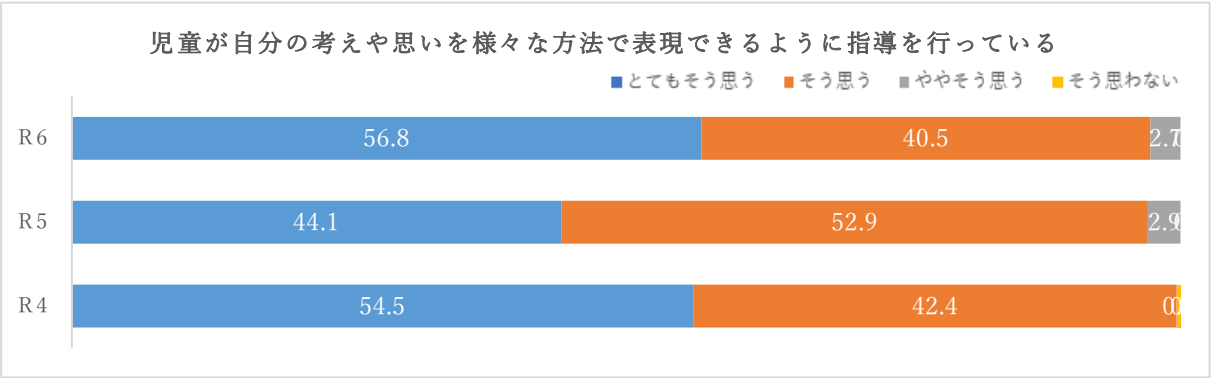
・児童会テーマ「前進～新しい一歩～」のもと児童会活動や委員会活動を中心に、よりよい学校をめざした活動が年間を通して展開されている。児童アンケート「委員会活動にしっかり取り組んでいますか」の設問に97.2%の児童が肯定的な評価をしており、本校の委員会活動に対する児童の意欲の高さがうかがえる。これは、教職員が継続的に指導してきた結果である。

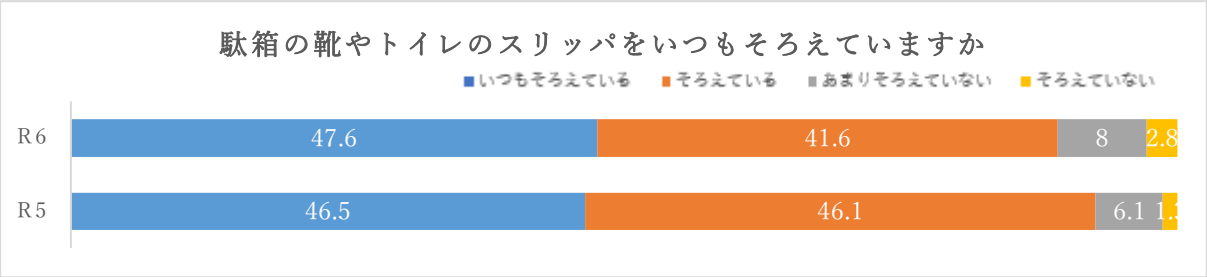


改善策	①「広場の時間」は、今後も「体育広場」「音楽広場」「児童会広場」として今後も様々なアイデアで趣向を凝らし、子どもたちが主体的に取り組む態度の育成を図っていく。 ②「ユニバーサルデザイン」の視点を生かした環境整備についても、その趣旨や効果を教職員が共通理解をもちながら取り組む必要がある。 ③学校の特色ある教育活動は、本校の実態とニーズを踏まえた必然性のあるものであることから、年度が変わり教職員が入れ替わっても、長く継続していくものであることを共通認識としてもちたい。特に本年度より学校運営協議会が設置されたため協議会とも連携を深め、よりよい特色づくりの下地づくりをしていきたい。

Ⅶ　創甲斐教育について

達成状況	・教職員の自己評価では「児童の読解力や表現力を高める指導を行っている」「児童が自分の考えや思いを様々な方法で表現できるように指導を行っている」「児童の体力や健康の維持増進を意識した指導を行っている」の3項目すべてについてAB評価がほぼ100%となっている。



	・児童アンケート「下駄箱の靴やトイレのスリッパをいつもそろえていますか」については、昨年度とほぼ同等の割合での回答となった。ただ、この割合には教職員と認識のずれがあり、まだまだ不十分であると感じている。今後も継続した指導を行って行きたい。 
改善策	①創甲斐教育の掲げる「国語力」「自己表現力」「体力」の向上については、学校教育目標や学校経営方針に掲げる「知育・徳育・体育」が目指すところと重なり、それらは学習指導要領の適切な実施によって実現されるものである。学校長のリーダーシップの下、学校教育目標の実現に向けて教職員が一丸となって教育活動に邁進することで、創甲斐教育が目指す理念の実現にも近づくものと考える。

3　まとめ

〈成　果〉

・「学校教育目標・学校経営方針」の全職員の共通理解のもとで、適切な学校運営がなされている。
・職員間の情報共有を基盤とした統一した指導が図られている。
・学習指導や生活指導及び生徒指導等において、個に応じた指導の充実が図られている。
・保護者との連絡調整・関係機関との連携は着実な成果を上げている。

〈課　題〉

・肯定的な回答率が伸びている内容については更なる向上を目指すとともに、肯定的な回答率が低下した項目や、A評価（とてもそう思う）のみで見た場合に数値が低いものや下降しているものについては、実態を精査し改善を図っていく。（特に自己評価の「学習指導について」と「創甲斐教育について」の評価項目）
・危機管理マニュアルに基づいた安心・安全な学校づくりを推進する。
・一人一人が活躍し、自己肯定感の高まる授業づくりを一層推進する。
・ICT機器の積極的な利用と、主体的・対話的で深い学びを目指した教育実践を進める。
・教職員と児童の信頼関係を強め、いじめや不登校の未然防止や早期対応を図る。
・教職員が子どもたちと向き合う時間と心のゆとりを確保するための業務改善、働き方改革を推進する。
・教育活動の充実と、学校運営協議会を活用し地域等外部との連携・充実を図る。